

第2回福島市都市マスタープラン策定懇談会 会議録

1 日 時 令和8年5月25日(月) 15:00~16:15

2 場 所 福島市市民センター 3階 313会議室

3 出席者 委員9名

小林 敬一 委員、 村上 早紀子 委員、 菱沼 寿美恵 委員
佐藤 玲子 委員、 岸波 弘美 委員、 菅原 高志 委員
笠井 一美 委員、 長島 美侑 委員、 佐藤 大亮 委員

オブザーバー2名

国土交通省 福島河川国道事務所長
福島県 県北建設事務所長

4 欠席者 委員2名

須藤 康子 委員、 吾妻 雄二 委員

5 内 容

(1) 開会

(2) 議事

- 第1回策定懇談会の振り返り
- 現都市マスタープランの施策の評価
- 都市づくりの課題

(3) 閉会

6 会議詳細(司会:都市計画課長)

(1)開会

(2)議事

会 長

事務局へ説明求める。

事務局

資料により、「1. 第1回策定懇談会の振り返り」「2. 現都市マスタープランの施策の評価」について説明。

会 長

今日は全体を2回に分けて皆様のご意見を伺おうと思いますが、最初に1と2についてです。

前回皆さんから出たご意見をまとめたのが最初の1になるのですが、そこでは4項目に分類されています。

1つ目は「中心市街地の方向性について」ということで、福島顔でもあり、あるいは活力の源である中心市街地をどう再活性化していくかという点でご意見が出ました。

2つ目は、「都市力の向上について」という区分けですが、これから先20年、福島市の方々がどうやって生活していくのか、大丈夫なのかという観点から、色々ご意見をいただきました。

特に日本全体そうなんです、交流人口が大事だという経済状況になっていますので、福島市は乗り遅れていないか、しっかりチェックしていかなければならないかとも思います。

3つ目は、「インフラ及び生活環境の維持向上について」とありますが、福島という近代都市を作ってきたわけですが、全国の例でありますように人口減少のもとでインフラの維持ができなくなれば、それが生活の質を下げてしまうおそれがあるので、しっかりチェックしながら、これからも環境水準を維持する必要があるというものです。

4つ目は、「市民ニーズへの対応について」ですが、これから20年先、市の姿も変われば、人口の年齢構成も大きく変わっていきます。

そういった中で、次の世代が暮らしていく上で、この環境でいいのだろうかとかという不安に対して、今でもすでに子育ての環境としては不十分ではないかとか、高齢者が増えていくが高齢者の生活には不便だとかそういう話も当然あるわけであります。

これから先を見越して考えておく必要がある。

これらは、いずれも前回答えが出されたわけではなく、そういう課題があるということ、それぞれに指摘していただいたということです。

5つ目は、以上の4つに加えたもので、前回の都市マスタープラン策定が10年前ですので、そう大きく状況が変わってるわけではなく、その枠組みで課題と考えたこと、あるいは方針と考えたことに対し、十分な対応ができたかどうか、まずチェックした上で、足りないものは加え、考え直すべきものは少し根本的なところから考え直して、新たな施策や対応が必要だろうというものです。

以上に、別途追加したものは、サステナビリティについてです。

これは地球環境問題なのですが、これについてはまだ不十分じゃないかという考え方から付け加えていますが、どの程度重要性があるか、まだ議論しておりません。

2の方では、現都市マスタープランのもとで行われている政策を一通りレビューしてもらいました。

一通り事務局にご説明いただいたわけですが、皆さんの方から率直なご意見をいただきたいと思います。

委員

まずは、説明いただきましてありがとうございました。

私から2点ありまして、まず1点目が、地域交通に関するコメントでございます。

ページ番号でいうと14ページの④に関連する部分ですけれども、今ある既存のバス路線を維持していくという視点もあっていいのかなと思いました。

バスの利用者数が仮に右肩下がりになっているとして、あるいは右肩下がりにじゃなくてもなんとか維持できているのであれば、そういう今の利用者数を維持することに加え、新たな利用者也創出していく、利用促進を進めていくという意味で、バス路線の維持、促進という視点もあっていいのかなと思いました。

この箇条書きの3つ目に記載されている、地域主体型の小さな交通に関しても、エリアによってターゲットの設定の仕方もあるかと思えますし、実際この小さな交通、市内6地区で実施されたと思うんですが、新しい取り組みなどを実施しつつ、一方で今の路線を維持する視点も加えてもいいのかなと思いました。

2点目が（４）の中心市街地の活性化に関する内容です。

今、福島市駅前で再開発ですとか、大きな取り組みが進んでいる一方で、街なかの魅力の向上とか、にぎわいの創出を図っていくという意味で、空間の再生と活用は大事になってくると思います。

具体的に言いますと、空店舗ですね。

中心市街地の空き店舗の活用、再生を図っていくとか、実際に色々な事業も進められていますけれども、新しく施設を作り続けるだけではなく、今ある資源を活用するという意味で、空間の再生、活用という視点も大事だと思いました。

あと、これに関連して、今年になって実現された「ほこみち（歩行者利便増進道路）」の指定とか、そういう新しい機会をいかに街なかの魅力向上と賑わい創出に繋げていくかということも非常に重要だと思いますので、そういう最新の視点も考慮してもいいのかなと思いました。

以上です。

会 長

事務局から何かありますか？

事務局

公共交通に関しましては、福島市とすれば、移動の自由は当然皆さんの権利であって、暮らしの自由につながりますし、非常に重要なことであると思い聞いておりました。

バス路線の維持、これは当然あっていいものだと思います。

ただ一方で、今福島市では、委託路線というのは非常に多くなっておりまして、福島交通で70路線近くあるんですけど、約50路線は委託路線となっております。

乗車人数が少なくなって欠損しております。

というところで、それを全てなくすということではなくて、利用促進を促しながら、一方で小さな交通ということも含めた今後の公共交通の政策の転換っていうのも必要かなと思います。

ただ急激にはいきませんので、地元の理解、それと公共交通の事業者、あるいは知見がある先生方にもいろんなご意見をお伺いしながら進めていければと思っております。

それと2点目の街なか魅力向上、にぎわい空間の整備ということで、ほこみちの指定についてもお話がございました。

今、福島市でも、ウォーカブルなまちづくりということで、車中心から人中心のまちづくりへと市民の方にもご意見を聞きながら進めているところです。

当然吾妻通りだけではなく、駅前通りとかいろんなご意見を聞きながら、ほこみち指定、それとウォーカブルは面的な事業になりますので、空き店舗を活用した公的な空間ということも含めて、今後も一つ一つ着実に取り組んでいければなというふうに考えております。

会 長

他にいかがでしょうか。

委 員

粗大ごみのことです。

福島市の粗大ごみが、指定日に自宅の外に置くと無料で引き取ってもらえて、私も何度か利用させていただき、本当に助けられています。

群馬県では、依頼をすると、1つ500円で家の中からタンスなどの粗大ゴミを搬出して処分するというシステムがあるようです。

福島市も今後高齢化で、特に女性の方が長生きをしているように見受けられますので、

一部有料化でもこのようなシステムがあってもよいと思いました。
以上です。

事務局

ご指摘の通り、ごみの有料化の問題、福島市の方でも今後議論になってきますし、また市民のご理解も必要なものですから、今後市長をトップとした対話集会を市内全部で、市民の皆様との意見交換等がございますので、その中で議論しながら進めていければとおりますのでよろしくお願いいたします。

会 長

私も今のご意見、大変重要な視点だと思います。
ここまでは民であり、ここまで官であるという、境目が明確にあるわけですが、生活者の実態からすれば、自分の生活空間から一歩外に持って行くまでがそもそも大変で、その部分のサービスがあるかないかで生活の質が大きく変わるという場合も多々あるかと思います。
その連続感については、いろいろ知恵を絞っていただけるとありがたいですね。
他にいかがでしょう。

委 員

資料の 28 ページの③の再エネのところですが、私がドイツに留学していた際に、学校でコジェネレーションを学んでいたりと、シェーナウ電力さんが環境省の方にお話を聞いたりしたんですけれども、福島の会津電力さんに伺った際に、山の上に風車を運ぶのが大変であるとか、福島の自然が豊かなところに再エネを進めるにあたっては課題があるのかなと思っていて、ドイツの方にその辺ご教授いただく機会があってもよいかなと思います。

あと、福島駅前の休日の人流増加が 50%という数字がすごいなと思ったんですけれども、東口で毎週日曜日、次回で 419 回目のグッデイ・マーケットという催しをやっており、イベント業者さんに機会や場を設けること、また PR されることで市が主催ではなく市民主催のイベントが行われており、よい取り組みだと感じました。
以上です。

事務局

再生可能エネルギーの関係ですが、今メガソーラーなどにより山地の開発が進んだということで、市の方でも、様々な取り組みをさせていただいております。
今後、引き続きそういった取り組みを進めていくということと、併せて景観の方でも、何らかの取り組みをこれからしていきたいなというふうに考えておりましたので、よろしくお願いいたします。

またグッデイ・マーケットについてですが、ご意見として承りたいと思います。
ありがとうございました。

委 員

いただいた資料の 4 ページに、福島市が目指す都市像のイメージ図っているのがあります。
東北中央道などの整備により圏域は広がり、相馬や山形へのアクセスがしやすくなった一方で、松川の義務教育学校のように学校の統廃合が進んで、街なかにある第一小学校、第四小学校、清明小学校を統合するような話と学びの多様化の学校という二刀流でいくという方針のようなんですけれども、そういった学校関係のことがここに出てきて

いないと感じました。

なのでこのイメージ図において、例えば右上の集落などっていうふうに矢印が上がってるんですけども、全体のまちづくりは広域に展開されるのに、小中学校が統廃合になる、集約されるというところに着眼して、その辺の感覚がどこかマスタープランにほしいなと感じました。

人口は増えることはもうないわけですし、今ネットで住民票なども取れるので、ゆくゆくは支所も、本庁に統一されるのではないかと思いますので、その辺の内容もあってもいいのかなと感じました。

10年以内には何かしらそういったことが起きてくるのではないかなと個人的にちょっと想像するんですけど、そういった文言が見えなかったと思いました。

よろしくお願いします。

事務局

本市が目指す都市をイメージするということで、あくまで概念としまして、今ある小学校や支所、これを拠点としてとらえて、中心市街地だけではなくて、各地域の活性化も図りたいという考えです。

また、公共施設の再編についても、待ったなしで今進められてる状況で、現行の都市マスの中では、“その他の施設に関する方針”ということで、ある程度まとめさせていただいてます。

ただ、都市マスの中で、いわば限界がありまして、そちらは公共施設の再編計画などで進めておりまして、それと整合を図りながら位置付けするものと思っております。

私どもも同じく問題意識ととらえておりまして、いかに地域を活性化させていくかが、非常に重要な課題だになっていうふうに思います。

今の概念ということで捉えていただいて、その文言を整理していきたいと考えてます。

会 長

私も委員の意見に賛成で、本来は20年後を見据えて地区と全体との関係がどう変わっていくのかというものをちゃんととらえて、概念図を作り変えなければいけないですが、概念図を作り変えること自体、相当な作業になるわけで、これはむしろ国の方からおりてきている概念図をベースに作成されているのでこのようになっているのだと思います。

現況に即して変えられるものは変えていければと思います。

次の課題もありますので、次のご説明いただいて、またご発言いただいていない方も後ほど伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

では事務局は、次の説明をお願いいたします。

事務局

資料により、「3. 都市づくりの課題」について説明。

会 長

今日の資料は以上ですね。

事務局からの説明を受けまして、皆さんの方からご意見、ご質問等ありますでしょうか。

委 員

福島市のマスタープランは県のマスタープランにも即するものだと思うのですが、県が求められてる福島市の役割というものもあるかと思います。

良いか悪いか別として、市外の人目につきやすい、わかりやすいという視点と、市内で生活している人が何がよいかわかるには分からないけど平均して満足できるという、2つの視点があると思います。

今、まちおこし協力隊の方と接する機会があって、松川町水原の田んぼ道の田園風景がよいとおっしゃっていましたし、妻の親戚が大宮に住んでるんですけど、高湯温泉と花見山はよかったとおっしゃっていました。

お昼ご飯は会津で食べたようなのですが、福島市内で宿泊されるまで完結できればよいのかなと思います。

良い方向へのギャップを与えられるように、民間側にある程度自由度があるとよいのかなと感じました。

あと、日中街なかは、大学生とかがよく歩いているので、日中の消費者を大学生にターゲットとするのがよいのかと思っていて、学生時代に授業の合間に街なかに行くとなれば同じ年代のたちが歩いていて、お金を落としてくれるターゲットって、意外に大学生が大きいのではないかなと思いました。

会 長

まず吸引力として、市外からいかに人を呼ぶかというところに関しまして、大事なポイントかと思います。

地域には平均して良いという部分も当然あるわけで、外から来られた方には何気ない農村風景であっても、素晴らしいものかもしれない。

しかし、農村の人口はどんどん減っているので、こうした良さをどう活かしていけるかが問われているのだと思います。

観光資源と捉えて観光サイドと連携してやっていくような発想も必要かと思います。

それから、中心市街地を支える主体は何なのかということです。

福島大学が外に出てしまったという意見は、前回も出ましたけれど、どうやってこれから中心市街地の周りに中心市街地を支える人口を再配置ができるのかというのも課題だと思います。

この評価はもう少し総合的に考えなければいけないと思います。

他にありますでしょうか。

委 員

福島駅東口の再開発が決まって、辰巳屋がなくなってとても困るっていう話を伺いました。

駅前という利便性でもあって、年1回の総会などで弁当よりちょっといいランチを食べながらというのがすごく良かったということでした。

これから駅前に完成する建物の会議室等で飲食可能であれば、一般市民も利用しやすいのかなと思います。

そうすれば、普段市民の日常使いに繋がるんじゃないかなと思いました。

会 長

施設がなくなると、今まで過ごしてきた施設の使い方やイベントであるとか、みんなの集まりであるとか、そういうところは生活の質を非常に豊かにしてくれるものであって、なくなって初めてありがたみが分かるわけですね。

西口にあったイトーヨーカドーもそうかもしれないですね。

今後のことを考えると、そういった方々のニーズにどう応えていくか、大事な視点であると思いました。

委 員

31 ページの中心市街地の中に、休日の歩行者、自転車通行量が徐々に回復と書いてあったんですが、例えば、かなり道が細い中、その脇に自転車の通行帯があったりして、自転車も自動車も歩行者もみな危険になってしまう道がかなりあると思うんですけども、それに比べて、駅から東高や成蹊高に向かう道はすごく広く、自転車も歩行者も自動車もかなり通行しやすいようになったと思います。

地方都市では自転車がかなり使われると思うんですけど、自転車専用帯などがどのように広まっていくのかなと思いました。

もう一つは、福島は特に気温の高低差がかなり激しく、先日も駅前の気温計が 35℃を超えてしまっていて、たまたまその日高齢の方が熱中症でフラッと倒れてしまったということがありまして、駅前のバス待ちのお客様の熱中症対策であったりとか、そういった点で何かしら中心市街地のにぎわい創出の議論がありましたけれども、にぎわい創出のために住民の方々にどのようなことができるのか、そういった点についてちょっと着眼したいなと思いました。

以上です。

事務局

委員のご指摘の車と自転車が共有された道路を今後作っていくのか、っていう話は、新しい道路整備を行うということになりますとなかなか難しい状況にあります。

ですので、街なかであれば、ある程度自転車でもどこかに来ていただいて、そこから歩いていただくとか、先ほど委員からお話がありましたウォークアブルな取り組みも含めて、そういったことが重要になってくるのかなっていうふうに考えております。

事務局

補足説明します。

福島市は、市内に坂道が少ないので、非常に自転車で移動しやすく、シェアサイクルも年々場所も増やしながら、利用促進を図ってきました。

ただ、自転車はやっぱり法律上軽車両なので、今現在は高湯街道車道のところに矢羽根を書いて、自転車通りますよというように表示しております。

その時に車も少しよけて走らなければいけない。

そういった方法も含めて、自転車のネットワークっていうのは、自転車の法律が変わって、青切符も取られているという話も聞きますので、その辺の自転車等の通行帯のネットワークというのは、今後、考えなければならないと市としては感じています。

会 長

非常に大事なテーマだと思います。

ネットワークとして自転車環境というのも重要であると思われます。

委 員

学生に市内のあなたが好きなまちの景観ってどこか聞いた際に、東高出身の学生が、東校から福島駅方面へ通ずるあの道路（腰浜町町庭坂線）の景観がよいと答えていました。

あの道路で夕焼けを見ながら今日駄目だったとか、悔しかったとかそういった試合のこととかいろいろ絡めて部活の行き帰りのあの景観が一番よかったっていう話をしています。

した。
蛇足ですが、付け加えさせてください。

会 長

景観の課題でもあって、そういうシーンや体験とか、印象深い景観を作っていくことも大事だと思うんですね。

委 員

子どもと南福島で外食をした際に、海外の方に声をかけられ、観光場所はないかと聞かれた時に、頭に浮かんだのが飯坂温泉でした。しかし、自転車でいらしていたので、「多分自転車だとちょっと遠いし、どうする？」ってなっていました。
なかなかおすすめの場合というのがパッと出なくて皆さんどこを教えますか。

委 員

私も福島駅東口でその経験があって、その時の外国人の方たちは歩かなきゃいけないみたいな感じだったので、県立美術館と東口にある餃子屋を勧めました。

会 長

そういったこともやはり大事ですね。
それぞれの交通手段によって、行動空間は違いますので、それぞれどんなところに魅力を感じるのか、そういったポイントをみんなで意識し共有し合えるしくみが大切かと思っています。

それでは全体を振り返って、皆さんから何かご意見があったらお願いします。
最初に委員から概念図が違うなんて話がありまして、都市計画技術的にはとても大事な話だと私は思っています。

今日はまちづくりの課題として、人口減少、中心市街地、災害、行政サービス、観光と出ていますが、前回の皆さんの発言のところから導き出した枠組みとしては中心市街地、都市力、市民ニーズ、インフラという分け方をしているのですけれど、いくつかは、集約していけるかもしれません。

しかし、まだまだ我々の見えていないことが、皆さんのご発言の中にありまして、例えば先ほど熱中症の話もありましたけども、それぞれの年齢層でどんな配慮が必要なのか、どういうまちづくりをしてほしいのか、直接ハードに結びつかなくてもよいのでまちづくりのポリシーとして、大切というようなところもあるかと思っています。

また例えば、しっかりとした自転車のための基盤を作って自転車交通を盛んにすること自体が、中心市街地の活性化に繋がるかもしれないし、人々の行動空間をサポートする上で大切かもしれません。

それから、中心市街地を観光地と考えるかどうか、都市観光と言われるんですけども、ちょっと私も福島市の状況を聞いてないのですが、山形や東北は伸び悩んでいます。

しかし、それぞれ都市には魅力もありますし、人が集まると投資意欲が高まります。
今日出された枠組みと評価を、クロスで繋いで立体的に見ていくと、良いのではないかと思います。

そのほかご意見がありましたらどうぞ。

委 員

意見とかではないですが、先ほどの説明の中で、“観光資源の有効活用と、拠点の整備・レクリエーション環境の魅力化”とご説明があって、土湯温泉町なんですけども、

ここ数年すごくおしゃれになりまして、発酵食品とか前面に出して、久しぶりに行ったら、垢抜けた感じがしたんですね。

そして資料にもありましたが吾妻山麓蔵元ツーリズムの醸造所とか、おしゃれなカフェがあるらしくて、そういうおしゃれなものがあると県内からも人が集まると思って、人口は減るけども、その他の地域からの集客っていうのはそういうふうなところから見込めるんだなと感じました。

せっかくでしたらそういうのを活用してイベントを立ち上げるきっかけみたいなのがあったらもっと人がいっぱい集まってくるんじゃないかと思い、その中で、移住しようと思う人がいるかもしれません。

たださっきも話が出ましたが、交通手段はやっぱり大事で、福島はどこに行くにも車じゃないとなかなか厳しいのかなと思います。

やっぱりレンタカーやレンタサイクルなどそういったものも、整備して移動しやすいような環境も、大事なのかなと思いました。

会 長

都市計画の立場からすると、前半は都市計画課題、後半は、むしろマーケット・市場に任せたいほうがいいだろうと考えるところです。

今日のこの資料の中に、民間の動きっていうのがまだよく見えてないわけで、実際の土湯でそういった動きがあるとすれば、その動向を確認して、今後の方針を考えていく必要があるかと思います。

委 員

福島市データブックに記載されています日帰り圏 335 万の都市力っていうのがありまして、それが福島田園中枢都市圏ということで、ゴッホ展がこの間終わりましたけれども、市外から多くの人たちが入ってきて、東北中央自動車道などの整備によって、より遠くの人が福島に来てくださるようになった一方で、今ここに住んでいる人たちの暮らしが不便になってはならないと思います。

例えば、幹線道路ができたが、それゆえに3車線の道路を跨いでいかないと買い物に行けなくなったとかそういったことがないように、両方考えていくのが、マスタープランなのかなと感じました。

会 長

そうですね。大変ごもつともだと思います。

経済的観点と共に実際にそこに暮らしている人々にマイナスにならないようにしっかりとした方針が必要です。

他になければ以上でよろしいでしょうか。

今日いただいた課題もたくさんありますので、事務局で検討してほしいと思います。

事務局の方でもかなり頑張って、これまで現行マスタープランのもとで行ってきた、実現施策の評価をしてもらいました。

ただ、皆さんの方からご指摘あったように、まだ評価の視点自体が不十分であるとか、その担当課の目から見れば成果があったというところは見えてるんですが、それがトータルに全体の中でどのような変化をつくり出していくのかという観点からまだまだ見えないところがあります。

また、公共政策だけではなくて、実際の民間の方の動きもみて、福島市がどう動きつつあるのかをしっかりと把握していただいて、都市づくりの課題を前回出された意見の枠組みと合わせて、評価軸を整理しまして進めていければと思います。

合わせて、福島の都市像は実態に合っているのか、あるいは今後はどうなっていくのだ

ろうか、予測とはいわないまでもせめて変化動向を言葉にさせていただくなどして、次回まとめていただければと思います。
より実効的な計画となると思いますので、今後ともよろしくお願いします。
今日はどうもありがとうございました。

事務局

会長におかれましては、スムーズな会議の進行をいただき、誠にありがとうございます。

それでは3のその他ということで、今後の進め方について説明いたします。

38 ページをご覧ください。

次回第3回懇談会では、都市づくりの課題については、今回で出された意見や協議結果をもとに、現在行われている総合計画の磨き上げの進捗と合わせながら、詳細な見直し作業を進めてまいります。

また、都市づくりの課題の見直し結果をもとに、都市づくりの将来像、全体構想の一部についてお示ししご意見をいただきたいと存じます。

開催は、10月頃予定しておりますので、よろしくお願いします。

なお、第4回以降は、第4回は12月頃、第5回は来年2月頃の開催を予定しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

今後の進め方については以上となります。

(3)閉会